

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年7月24日(月)

# みんなの居場所

夏休みまで残すところあと2日となりました。子供達の心はずで夏休みに入っているかもしれませんね。  
私たちの学校で働く者として、もしもリフレッシュするポイントにおいて楽しみますが、毎年心配するところがあります。それは、子供達の事故やケガです。夏のレジャーは、水難事故も非常に心配です。外に出る機会が多くなればそれに伴って交通事故の心配もあります。事故やケガは注意していかないと防げないが、できる限り思います。そのためにも、今まで行ってきたこと、学んだことを、確実に実践するところがあるかなと、思います。

**【職】 職能の更新**  
自分自身の職業能力を更新し続けるためには何より「素直さ」が必要だと思ふ。素直さというのは何でも「はい、はい」と言っているのではなく、考えがひねられていないこと、ことごとく。私は現任校長職に就いて、多職種の仲間から手本やノウハウを学ぶことが多い。成功体験もそれなりに有り、自信もついてきた。それがだんだんついていって自分の考えを押し付けているところがあった。  
校長職の職能を更新していくためにはやはり素直さが必要だ。更には、自分自身の知識や専門性に疑問を持つことも、うかかも重畳だと思ふ。年齢を重ねるにつれても、経験値が上がる物事を判断し、部下や子供達の柔軟な発想を止めず、無理解で決めつけたりせず。  
学校では、校長だからとか、教頭だからとか、教師だからとか、役職の差があっても目指す目標は同じであり、時代に合わせた職能を更新していく必要がある。言い換えるならば、自分が築いてきた実績を捨てる勇気があるかどうかにかかっていると思ふ。  
どんな職業についても同じことが言えるのではないだろうか。時代に合わせた職能の更新は、職業人として当然行わなければならない義務であり、責任であると思ふ。

**夏の夜空のイベント**  
夏休みになると必ず流れ星を観ることが出来ます。お盆の前頃にハルセウ入座流星群と、連が良ければ1時間140〜60個程の流れ星が出現する現象があるかららしい。  
今年のハルセウス座流星群の活動が活発になる時期は8月13日頃です。11日か14日頃までは確実に流れ星を観ることができるといわれています。月明かりと反対側を観ていけば明るい流れ星が見えるはず。普段よりも多く流れ星が見られる時期ですから晴れれば100%観ることが出来ます。  
雨は心配ですが、普段より早立って多くの流れ星を観ることが出来るのは11日の夜から14日の夜までです。夜の暗い頃から流れ星が出現するようになり、夜明けに近づくと流れ星の数が多く(多い時は1分に1個流れ星)なるといいます。  
もう10年ほどの情報です。8月27日(日)は、土星が観察の好機です。低倍率の望遠鏡や双眼鏡でも土星の輪がはっきり見えるそうです。私と一度望遠鏡で見せてもらった事がありますが、土星の輪を見た時はとても興奮し、感動しました。やはり実物は臨場感が違います。  
丁度、お盆休みも重なりそうですので、ご家族で観察してみたい方は何となく、レジャーシートを敷いて地面に寝転んで観るか、リクライニングシート等があればのんびり観察してみてください。大人は夕涼みに一杯やりながらでもいいかもしれませんね。  
事故に遭わないよう十分注意し、マナーを守って観察してください。

**シリーズ「自分を語る」#110**  
「栗葉魔酔怪」も終わって、慌ただしかった年末、穏やかな新年を迎え、あつこつこの3学期突入です。1月は行く2月は逃げる3月は去るのやま、と言ったもので、私に於いては平成21年度の3学期はあつこつこの3学期でした。冬休み明けから、卒業に向けての取組がスタートし、その柱は3つでした。1つ目は中学校に入学直後に実施される実力テストに向けての学力充実対策でした。これについては点数を取るための語込み型の学習でしたが、子供達は私の話の意味を深く理解してくれました。黙々と頑張りました。入学後のテストの結果はかなりの良かったと聞いています。2つ目の柱は、卒業に向けての思い出作りです。私が担任の母の頃、学校は大きく分けて3つの行事をしていました。ナイター、学校キヤンパ、リレーマラソンです。ナイターとリレーマラソンは同じ距離で行います。その、42.195kmです。一人一人の500メートル走の記録から目標タイムを算出して、自分たちが少し頑張れば達成できる記録を設定させます。この時「少し努力すれば」という所が味方です。手の届かない目標を設定するより、達成させて満足感や達成感を味わわせたい方が将来的に役に立ちます。多く、目標が達成できなかったとしてもその問題点を自ら問うていくことができ、次に繋がっていくので、まったく問題ありません。3つ目は学校独自の「卒業文集」制作です。この年の学級では子供達に「とても楽しい過した時間だったのだから、何と文集のページ数は100ページを超えました。それをどうやって綴じあげようか、ドリルで穴を開けてタコ糸を使って綴じようか。この1連の作業も、ドリルでの穴開けを除き、全て子供達に任せました。  
この3つの柱は、子供達が毎日学校に来るとして取り組むモチベーションに繋がりました。みんな、残された時間を大切に使うという意識、日々を送っていました。3月初旬、リレーマラソンが実施されたのですが、この学級の昨年までの実態を保護者も職員も知っているので、色々な場面と協力を頂きました。正に地域、家庭、学校が一丸となって学級を盛り上げていく活動でした。子供達1人1人のサポーターになってリレーマラソンが実施されました。子供達の間に先生方やお父さんお母さん、当然私も含めて、みんな走り出しました。学級の中で何か必要かを考えさせ、子供達は大事にしたい視点として「笑顔」「協力」「助け合い」となりました。子供達何「走る」ことに対しては苦しみ意識をもっている友達を得意としている子供達がサポートし、友達を励まして「ランマ」と声を掛け、リレーをしている間中、常に応援の声を聞いていました。最後は「リレー」に倒れ込むように「ゴールした仲間」に駆け寄り、いつの間にか力を失っている子供達、そして、それを見ながら涙を流すお父さん、お母さん、そして先生方。私はその光景を見ながら「やっぱり良かった」と心から思いました。(111)